

鈴木五郎，米田該典 著 『医史跡を訪ねて』

小太郎漢方製薬は、漢方エキス剤の製造・販売を行う製薬会社で、1929年に創業、大阪市北区に本社がある。本誌にもよく広告を掲載されているので、日本医史学会会員にもなじみのある会社である。現社長鈴木一平氏の父親で元社長の鈴木五郎氏（2008年没）は、1991年から会社の機関誌『小太郎漢方ニュース』などに「医史跡を訪ねて」というコラムを長年にわたって連載され、その数が31編に上っていた。目標とされていたのは、京都今熊野の医聖堂碑に掲げられた日本の医の先達122名のうち漢方に関係する80余名を目標にされていたという。その内容は単なる社長業の余技というものではなく、実際に各地の医史跡を訪ね取材し、先達の生涯と業績についても入念に調べて書かれたものである。鈴木氏と旧交のある大阪大学医学史料室の米田該典氏が50数編を補足されて、本書『医史跡を訪ねて』ができあがった。

鈴木五郎氏による31編は以下の通りである。

神農，少彦名命，少彦名神社と張子の虎，五條

天満宮，大己貴命，鑑真和上，丹波康頼，田代三喜（古河三喜），曲直瀬道三，永田徳本，曲直瀬玄朔，北山寿安，古林見宜，岡本玄治，後藤良山，香川修庵，奥村良筑，賀川玄悦，吉益東洞，山脇東洋，寺島良安，永富独嘯庵，淡輪元潜，賀川南龍，和田東郭，中神琴溪，吉益南涯，原南陽，華岡青洲，尾台榕堂，浅田宗伯

米田該典氏は4年ほどをかけて他の50数カ所の医史跡を巡り、記事を書かれた。「史跡巡りは時間とともに体力が必要な事業である事を思い知った。」と序のところで述べられている。また医史跡は時代の経過とともに失われていくものもあり得る。貴重な医史跡の記録を残された両著者と、その出版をされた小太郎漢方製薬に敬意を表したい。

（坂井 建雄）

[小太郎漢方製薬株式会社，〒531-0071 大阪府大阪市北区中津2丁目5番23号，TEL. 06（6371）9106，2016年12月，B5判，199頁，3,800円＋税]